

平成 29 年度京都府民の意識調査の結果について

府計画推進課

はじめに

京都府では、府政運営の指針である「明日の京都」を推進するために、その中期計画等に盛り込まれた約 400 の指標に基づいて府の施策等の成果を測定・点検し、絶え間なく施策の見直しを行うこととしています。

一方で、これらの指標では測定できない、「子育てのしやすさ」「働きやすさ」といった府民の皆さまの生活実感を測るために「京都府民の意識調査」を実施しており、「京都府社会が『だれもがしあわせを実感できる社会』に向かっているか」や「府政運営の方向性が府民の皆さまの意識とかけ離れたものになっていないか」などを点検しています。

この「京都府民の意識調査」の他に、47 都道府県の中における京都府の水準を把握できるような統計的データも併せて分析することにより、重点的に取り組むべき課題を抽出し、予算編成等においてこれを活用して、次年度以降の施策展開を行っています。

ここでは、その「京都府民の意識調査」について、平成 29 年度に実施した調査結果の概要をお示しします。

1 調査の方法等

府内在住の 4,900 人（満 20 歳以上）を住民基本台帳から無作為抽出し、郵送で回答をいただきました（回収率 43.1%）。

抽出数の考え方は、次のとおりです。まず、平成 27 年実施の国勢調査の京都府の人口構成に比例するように 3,000 人を市町村別、性別、年齢階層別に配分しました。その上で、抽出数が少ないことによって調査精度が低下することを防ぐため、亀岡市以北の市町に 1,100 人、向日市、長岡京市、京田辺市、木津川市並びに乙訓郡及び相楽郡の町村に 800 人を追加配分しました。

また、回答の集計に当たっては、国勢調査の人口構成（市町村別、性別、年齢階層別）と比例するように、再度、補正を行っています。

これらにより、本調査の精度を一定水準以上に保ち、調査の結果が府民の皆さまの生活実態と合致するようにしています。

2 結果の概要（資料参照）

（1）全体傾向

平成 29 年の調査（6 月実施）では、前回調査（平成 28 年 6 月）に比べて、12 項目で数値が上昇しました。また、「明日の京都」が目指す「だれもがしあわせを実感できる」京都府社会の姿に近い回答をされた府民の方が 70% 以上だった項目も 12 項目ありました。

(2) 高い割合を示した項目

個別の項目をみますと、「これからも京都府に住み続けたいと思う人の割合」は91%であり、調査開始（平成23年度）以降、91～92%と、非常に高い割合で推移しています。

このほかに高い割合で推移している項目としては、「子育てに喜びややりがいを感じている親の割合」（94%）、「子育ての悩みを気軽に相談できる人がいる親の割合」（82%）といった、子育てに関するものが挙げられます。

また、「京都府では歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思う人の割合」（81%）、「子どもが、将来に夢を持っていると思う親の割合」（79%）、「希望する『働き方』（正社員、派遣社員、パート、アルバイト、自営など）で働くことができる人の割合」（79%）といった項目においても高い割合を示しています。

(3) 低い割合を示した項目

反面、「地域の防犯、防災、交通安全活動などに取り組んでいる人の割合」（27%）、「地震や大雨などによる災害に備えて、避難場所の確認や非

常持ち出し品の備蓄などを行っている人の割合」（32%）といった、防犯や災害への備えといった暮らしの安心に関する項目については、前回調査と同様に低い割合を示しています。

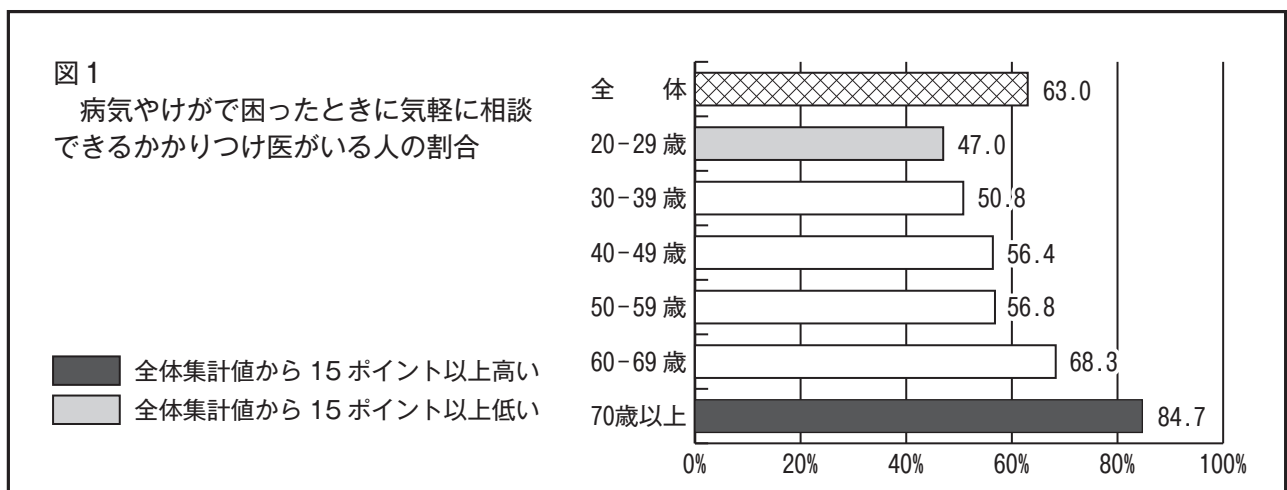
そのほか、「府や市町村の実施する府民協働の取組や、事業提案・パブリックコメントに対する意見提出など、行政のさまざまな取組に何らかの形で参画している人の割合」（11%）、「外国人の友人や留学生との交流がある人の割合」（17%）、「障害のある人とない人がともに交流したり、活動する場に参加している人の割合」（18%）といった項目においても、低い傾向を示しています。

3 属性による差異がみられる項目

(1) 年齢による差異がみられた項目

「病気やけがで困ったときに気軽に相談できるかかりつけ医がいる人の割合」については、府全体（63.0%）と比較して70歳以上（84.7%）で特に高く、逆に20歳代（47.0%）では低く、全体として年齢層が上がるにしたがって高い割合を示しています（他の年齢層においては50.8%～68.3%）。

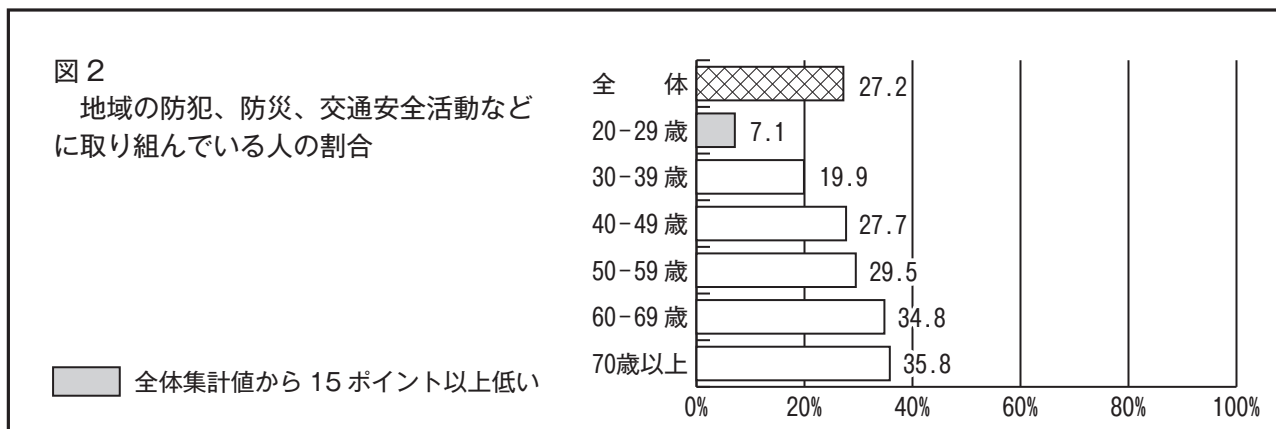
(図1)



「地域の防犯、防災、交通安全活動などに取り組んでいる人の割合」についても、府全体（27.2%）と比較して20歳代（7.1%）で特に低く、年齢層

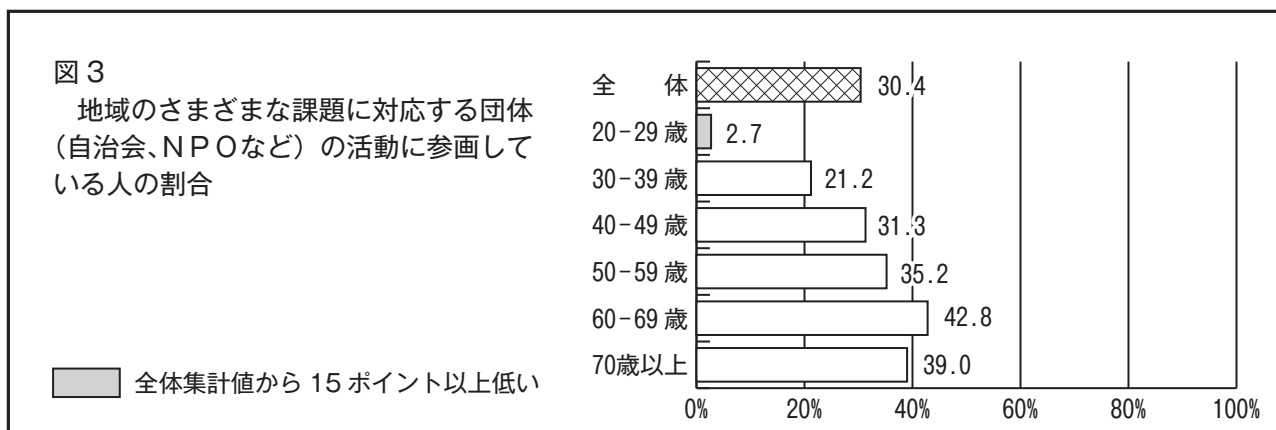
が上がるにしたがって高い割合を示しています（他の年齢層においては19.9%～35.8%）。

(図2)



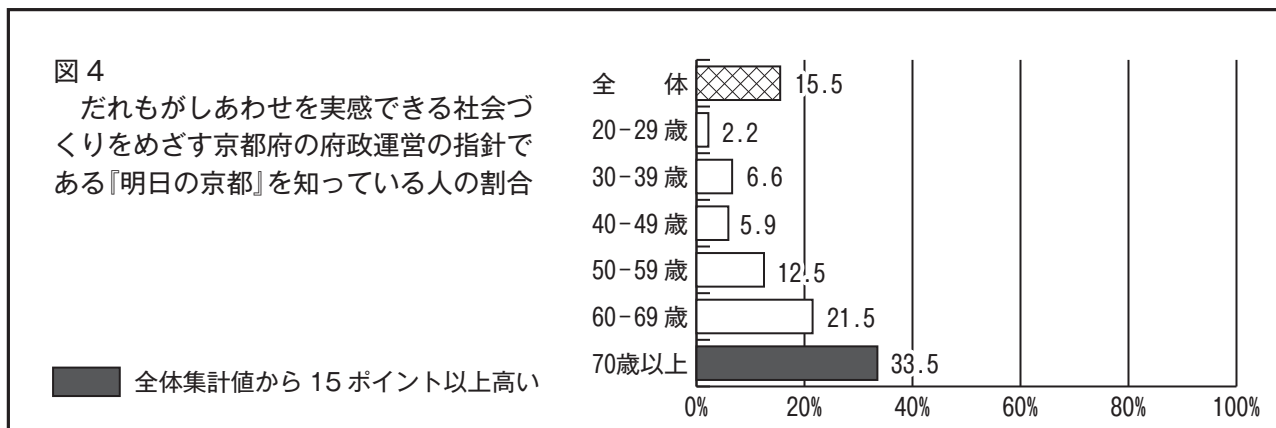
さらに、「地域のさまざまな課題に対応する団体（自治会、NPOなど）の活動に参加している人の割合」については、府全体（30.4%）と比較して 20 歳代（2.7%）で特に低く、最も高い割合

を示した 60 歳代（42.8%）との顕著な差異が見られました（他の年齢層においては 21.2%～39.0%）。（図 3）



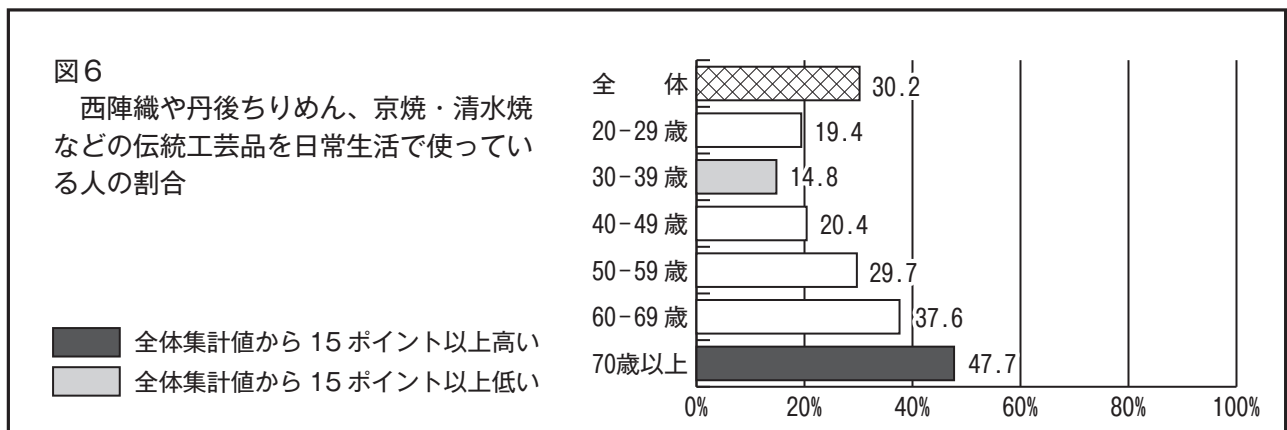
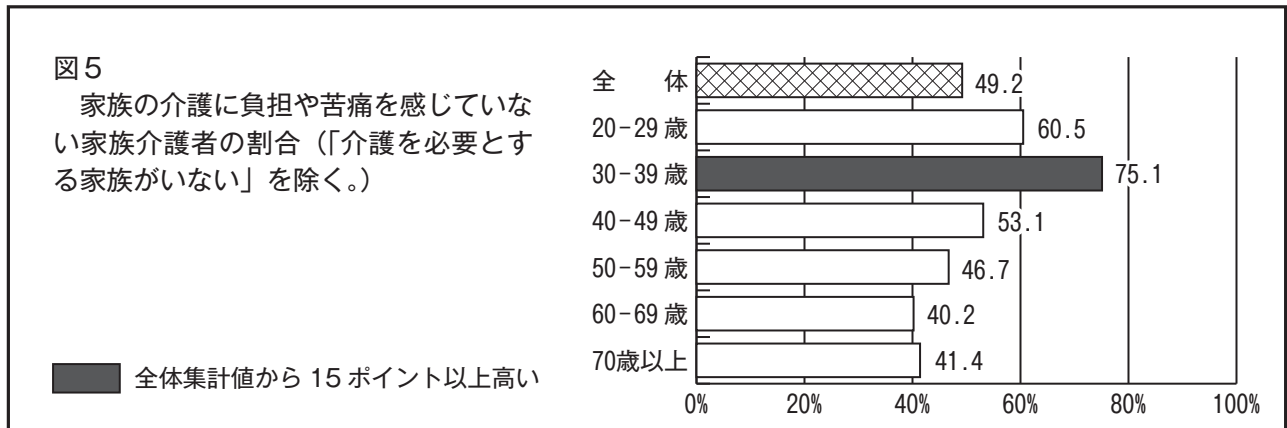
同様に、「だれもがしあわせを実感できる社会づくりをめざす京都府の府政運営の指針である『明日の京都』を知っている人の割合」についても、府全体（15.5%）と比較して 70 歳代（33.5%）で

高く、20 歳代（2.2%）では低く、大きな差異が見られました（他の年齢層においては 6.6%～21.5%）。（図 4）



また、「家族の介護に負担や苦痛を感じていない家族介護者の割合（「介護を必要とする家族がない」を除く。）」については、府全体（49.2%）と比較して30歳代（75.1%）で高く、一方、「西

陣織や丹後ちりめん、京焼・清水焼などの伝統工芸品を日常生活で使っている人の割合」については、府全体（30.2%）と比較して30歳代（14.8%）で低い割合を示しています。（図5、図6）

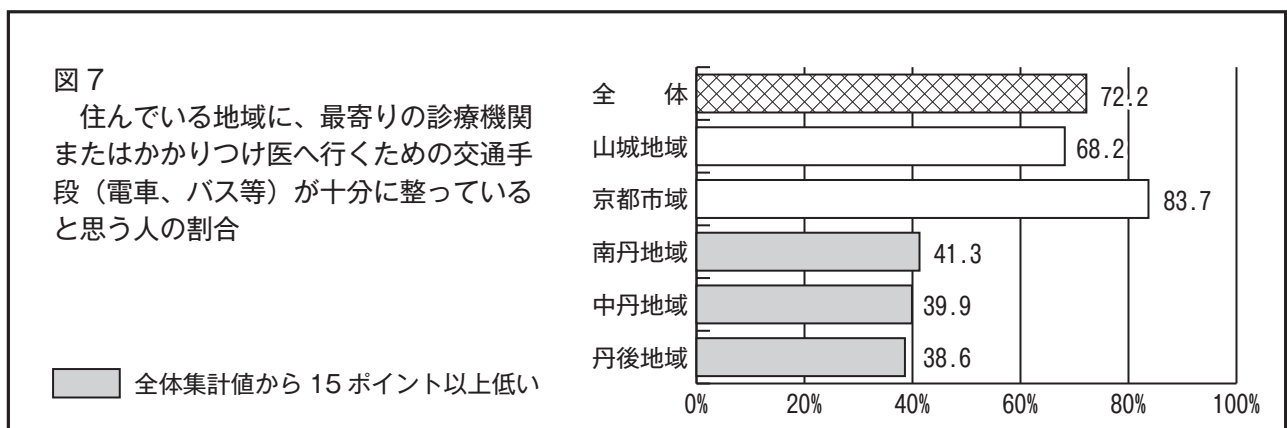


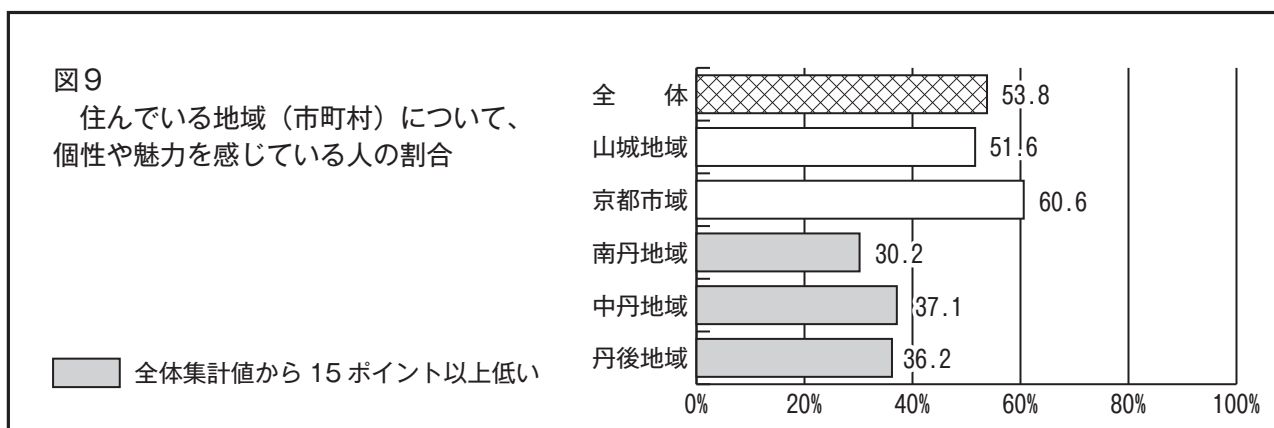
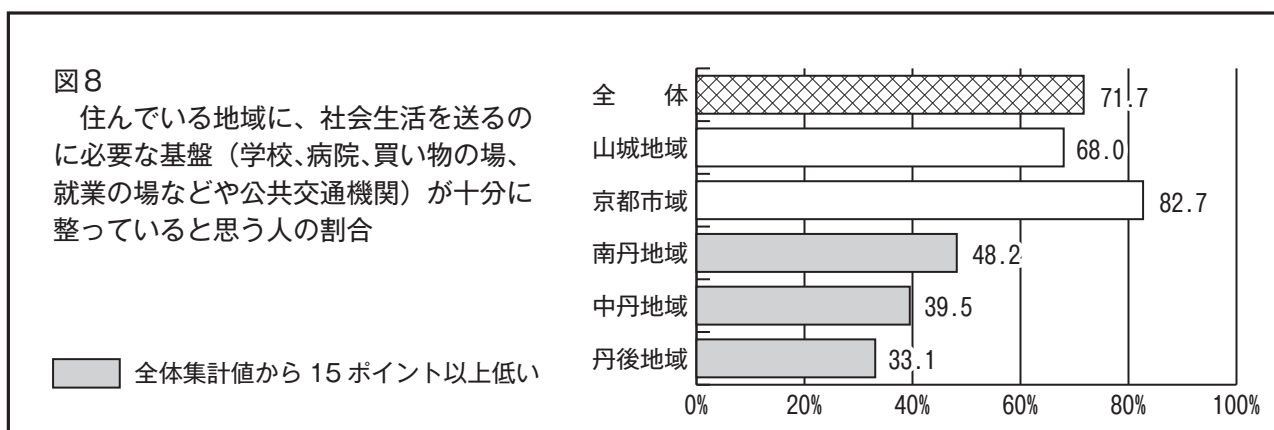
(2) 居住する地域による差異がみられた項目

「住んでいる地域に、最寄りの診療機関またはかかりつけ医へ行くための交通手段（電車、バス等）が十分に整っていると思う人の割合」、「住んでいる地域に、社会生活を送るのに必要な基盤（学校、病院、買い物の場、就業の場などや公共交通

機関）が十分に整っていると思う人の割合」といった社会インフラに関する項目や、「住んでいる地域（市町村）について、個性や魅力を感じている人の割合」については、京都市・山城地域と南丹・中丹・丹後地域とで顕著な差異が見られました。

（図7、図8、図9）





(3) 性別による差異

今回の調査においては、性別により大きな差異が見られた項目はありませんでした。

4 京都府への定住意向との相関関係が高い項目

京都府への定住意向の有無を尋ねる「これから京都府に住み続けたいと思うかどうか」という質問項目との相関関係を見たところ、「住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思う人の割合」、「住んでいる地域（市町村）が優れたまちなみや景観、自然環境に恵まれていると思う人の割合」

の割合」、「住んでいる地域（市町村）について、個性や魅力を感じている人の割合」、「京都府では歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思う人の割合」、「仕事にやりがいや生きがいを感じている人の割合」などの項目について、前回調査と同様に高い相関関係が見られました。

但し、相関性の確認にはグッドマン＝クラスカルのガンマを用い、その値が0.3以上であった項目を抽出しています。 (表)

表 京都府への定住意向との相関関係が高い項目

項 目	γ 値
住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思う人の割合	0.478
住んでいる地域（市町村）が優れたまちなみや景観、自然環境に恵まれていると思う人の割合	0.400
住んでいる地域は、高齢（者）になっても暮らしやすい体制（医療、福祉のほか社会生活全般）が十分に整っていると思う人の割合	0.387
住んでいる地域（市町村）について、個性や魅力を感じている人の割合	0.382
京都府では歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思う人の割合	0.353
仕事にやりがいや生きがいを感じている人の割合	0.323
住んでいる地域に、社会生活を送るのに必要な基盤（学校、病院、買い物の場、就業の場などや公共交通機関）が十分に整っていると思う人の割合	0.302

資料 「京都府民の意識調査（平成 29 年 6 月実施）」結果

「明日の京都」の体系	質問項目	割合		推移	
		○ 70%以上 × 30%以下	(○増、×減、 —横ばい)	28年度 (割合)	
府民安心の再構築	子育てに喜びややりがいを感じている親の割合	94	○	—	94
	子育ての悩みを気軽に相談できる人がいる親の割合	82	○	—	82
	住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思う人の割合	76	○	×	82
	子どもが、将来に夢を持っていると思う親の割合	79	○	×	80
	子どもの有無にかかわらず、子どもの社会体験活動への協力など、何らかの形で子どもに関する活動に参画している人の割合	33		○	32
	キャリアアップや趣味に関する生涯学習等に取り組んでいる人の割合	43		×	44
	仕事にやりがいや生きがいを感じている人の割合	75	○	—	75
	希望する「働き方」（正社員、派遣社員、パート、アルバイト、自営など）で働くことができていない人の割合	79	○	×	82
	規則正しい食事や運動など、健康づくりに取り組んでいる人の割合	69		×	71
	病気やけがで困ったときに気軽に相談できるかかりつけ医がいる人の割合	63		○	62
	住んでいる地域に、最寄りの診療機関またはかかりつけ医へ行くための交通手段（電車、バス等）が十分に整っているとと思う人の割合	72	○	×	73
	障害のある人とない人がともに交流したり、活動する場に参加している人の割合	18	×	○	17
	趣味や地域貢献活動など、やりがいや生きがいを感じるものがある高齢者の割合	59		×	60
	家族の介護に負担や苦痛を感じていない家族介護者の割合	49		○	46
	住んでいる地域は、高齢（者）になっても暮らしやすい体制（医療、福祉のほか社会生活全般）が十分に整っているとと思う人の割合	56		×	57
	地域の防犯、防災、交通安全活動などに取り組んでいる人の割合	27	×	×	29
	地震や大雨などによる災害に備えて、避難場所の確認や非常持ち出し品の備蓄などを行っている人の割合	32		○	30
	地域共生の実現	日々の生活の中で、身体状況、性別、その他について、差別、虐待、誹謗中傷などにより不快な思いをしたことのない人の割合	86	○	○
この1年の間にインターネット（フェイスブックやツイッターなど）によって、いじめ、誹謗中傷をされたことのない人の割合		99	○	—	99
地域のさまざまな課題に対応する団体（自治会、NPOなど）の活動に参画している人の割合		30	×	—	30
府や市町村の実施する府民協働の取組や、事業提案・パブリックコメントに対する意見提出など、行政のさまざまな取組に何らかの形で参画している人の割合		11	×	—	11
困ったときに気軽に頼れるご近所さんがいる人の割合		50		○	49
住んでいる地域に、にぎわいや活気があると思う人の割合		42		×	43
地域の祭りや伝統行事などに参画している人の割合		47		○	44
今の社会（家庭・職場・地域社会などのさまざまな場）は、性別によってやりたいことが制限されていると思わない人の割合		59		—	59
住んでいる地域（市町村）について、個性や魅力を感じている人の割合		54		—	54
住んでいる地域に、社会生活を送るのに必要な基盤（学校、病院、買い物の場、就業の場などや公共交通機関）が十分に整っているとと思う人の割合		72	○	×	74
京都力の発揮	仕事をはじめ社会的な生活を営む上で、自分の持っている才能や知識、技量などが十分に発揮できていると思う人の割合	51		×	53
	住んでいる地域（市町村）が優れたまちなみや景観、自然環境に恵まれていると思う人の割合	69		×	75
	節電や公共交通機関の優先利用、環境負荷の少ない商品の優先購入といったエコな暮らし方を実践している人の割合	66		○	65
	住んでいる地域で、地域の文化・芸術活動が活発に行われていると思う人の割合	45		×	49
	京都府では歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思う人の割合	81	○	×	82
	明治以来初めての省庁移転として、文化庁の京都への早期移転を実現することが東京一極集中の是正や日本の文化振興の一助になると思う人の割合	69		○	67
	西陣織や丹後ちりめん、京焼・清水焼などの伝統工芸品を日常生活で使っている人の割合	30	×	○	28
	外国人の友人や留学生との交流がある人の割合	17	×	—	17
	将来かなえたい夢や実現したい目標がある人の割合	59		×	60
	これからも京都府に住み続けたいと思う人の割合	91	○	×	92
住んでいる地域の環境が、以前に比べてよくなってきていると思う人の割合	38		○	37	
全 38 項目		○ 12 項目 (32%) × 6 項目 (16%)		○ 12 項目 (32%) × 17 項目 (45%)	

※調査結果を指標として利用するために、「そう思う」「どちらかというと思う」等、府政運営の指針「明日の京都」が目指す社会の姿に近い回答をした人の割合を算出して記載している。